

緒に銀行口座から引き落とされることとなります。

かんじんの本がまだ到着しないのでちよつと不安になりますが、なにしろ船便なので我慢して待つことにします。「船便は、忘れた頃にやってくる……」今回の本が着いたのは2月3日でした。どちらかといえば早い方です。木村先生の手紙にあったように「実によい本」でした。

送り状は、現物に付いて来ることもあります。また、一度に沢山買うときは、通関料が必要なこともあります。たいてい100円以下で、配達のときに郵便屋さんにお払います。

クレジットによる通信販売は日本ではまだ少ないよう

ですが、ひとつにはトラブルを恐れてのことのようです。今までにもトラブルが全く無かった訳ではありませんが、手紙を出して抗議したら、払いすぎた金もちゃんと戻って来ました。

地方に勤務していると大きな洋書店も無く、手にとって内容を確認して買うことは不可能に近いことですが、通信販売ですと、大都市にいるのと全く同様に新しい本に接することができます。最後に、ここに書いた方法は「インターフェイス」という雑誌に載っていた、「外国からのソフトウェアの買い方」という記事に基づいて、私が6年程前から時々利用している方法であることを付け加えておきます。

第10回風工学シンポジウム開催と発表論文の募集についてのお知らせ

<主旨> 構造物の耐風性など風工学に関する気象・土木・建築・電気の各分野における研究成果と技術の交流を目的として、標記シンポジウムを下記により開催することになりました。

発表論文をふるってご応募下さいますようお願いいたします。

<共催> 日本学術会議災害工学研究連絡委員会風工学専門委員会、土木学会、日本気象学会、日本建築学会、日本鋼構造協会(幹事学協会)、電気学会、日本風工学会

開催期日：昭和63年12月1日(木)～2日(金)

会場：中央大学理工学部校舎5号館
(東京都文京区春日 1-13-27)

発表論文の募集

(1) 課題

課題はつきによるものとし、内容は独創性のあるものでなければならない。

(a) 自然風の性質、(b) 環境と自然風、(c) 強風災害、(d) 風圧・空気力および構造物の周りの流れ、(e) 風による構造物の応答、(f) 耐風設計、(g) 計測方法・風洞実験法

(2) 応募方法

(a) 論文提出希望者は、昭和63年6月30日(木)までに、下記の項目について記入のうえ、A4版用紙に題

目、内容概要を邦文400字程度で記して、下記に提出する。

① 所属学協会、② 氏名(連名の場合は発表者に○印を付ける)、③ 勤務先・職名、④ 連絡先、⑤ 論文名、⑥ 上記(1)の課題(a)～(g)を記入

(b) 発表論文の執筆

① 論文提出希望者には執筆要領および所定の原稿用紙を送付する。ページ数は6ページ以内(英文概要を含む)の偶数ページとする。

② 提出原稿はワープロ打ち(タイプ打ちも可)とする。

③ 論文原稿は、昭和63年8月15日(月)までに下記に提出する。

(c) シンポジウム運営委員会は、発表論文の採否を昭和63年9月初旬までに決定し応募者に通知する。

注) 今回から論文の応募方法が変わりますのでご注意ください。論文はフルペーパーで提出下さい。

(3) 応募・論文提出・問い合わせ先

〒100 東京都千代田区丸ノ内 3-3-1

新東京ビル 848 日本鋼構造協会事務局

TEL. 03-212-0875 Fax. 03-212-0878

「第10回風工学シンポジウム運営委員会」

(担当 服部三千彦、寺尾幹人)